



# 看護ケア推進たより 15号

2017年8月



JCHO 大阪病院 特定研修受講生に聞く！



～特定行為研修の受講動機を教えてください～

## 一般診療外来寺岡真美看護師

私は、8年間内科・循環器病棟で勤務したのち、一般診療外来に配属され内科外来と皮膚科外来を経験しました。



また、褥瘡委員会のリンクナースも務め、創傷処置の経験を重ねてきました。現在は内科の医師にも皮膚トラブルで相談を受けることがあり、もっと知識を習得して、早期に対応できるようになりたいと感じています。

また、2011年に糖尿病療養指導士の資格を取得し、現在は内科外来で療養指導外来としてフットケアや、注射・生活指導を行っています。日々の診療の中で、医師と相談しながら、患者の生活に応じたインスリンなどの調整を行うこともあります。知識を持つことで、情報を開示して患者さんと具体的な話ができ、そして患者さんのQOLが上がったり、コントロールが良くなると、ともに喜びを感じます。また、様々な相談事を受けて患者さんと信頼関係を築くことができ、やりがいを感じて

います。これからもさらに知識を習得して、より患者さんに寄り添った看護・医療が提供できるようになりたいと考え受講を希望しました。

## 9階西病棟草場奈緒副看護師長



現在までに外科病棟（消化器・呼吸器・乳腺内分泌）、手術室、循環器内科・腎臓内科・心臓血管外科病棟で勤務をしてきました。

特定行為研修では包括的アセスメント能力の向上や治療を理解し、安全に医療や看護を提供する能力を身に着けることが可能であり、看護を基盤とした医学的知識や技術を強化することができるとあります。受講により判断力や実践力の向上を得、患者の早期回復や円滑な入院環境の提供、また在宅療養支援に貢献できるのではないかと考えました。ほかにも、スタッフ指導にもつなげることで病棟全体のアセスメント能力の向上にもつながり、看護の質の向上にも貢献できると思い受講を希望しました。

続きは... 4ページ！！

## ケア連携の会

### 「第 14 回 ケア連携の会」開催報告

「ケア連携の会」は、ケア連携のためのネットワークづくり、地域の皆様と共に学ぶ場として平成 24 年より開催しています。平成 29 年 7 月 11 日（火）に第 14 回を開催し、地域の 21 施設 37 名の方々と当院職員 42 名、計 79 名が参加しました。

「外来患者の在宅療養について病院と地域が連携するには～高齢・独居の事例を通して～」というテーマで事例検討を行い、活発な意見交換がなされました。参加者からは、「介入を拒否されるケースも多く、具体的な支援方法や関わり方について検討でき、今後活かせる。」とのご意見をいただくことができました。次回は、9 月に医療・看護トピックスの情報提供を開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております

(医療福祉相談室 北 由美)



開催日	時間	内容	場所
9月	18:00～19:30	医療・看護トピックスの情報提供	看護学校 視聴覚教室
11月7日(火)	18:00～19:30	事例検討会	当院6階 講堂1・2
2月6日(火)	18:00～19:30	事例検討会	当院6階 講堂1・2
未定	18:00～19:30	医療・看護トピックスの情報提供	看護学校 視聴覚教室
未定	18:00～19:30	医療・看護トピックスの情報提供	看護学校 視聴覚教室

## 行ってきました！健康講座



### ➤ 開催：2017年7月6日

テーマは「感染症の予防について」です。福島区吉野女性学習会からお招きいただき、43名の参加いただきました。感染症について正しい知識を持っていただき、自らが感染予防行動に結び付けられることを目的にお話しさせていただきました。

(感染管理認定看護師 柴谷涼子)



### ➤ 開催：2017年6月9日

テーマはハッピー☆足活セミナー「歩ける足づくり…足の観察、簡単足体操」についてです。福島区保健センター保健師さんからお招きいただき、30名の参加いただきました。足の健康について考え、自分の足を観察しみんなで足の運動を一緒に行い、大盛況でした。

(皮膚・排泄ケア認定看護師 中西由香)







## 本・雑誌のご紹介



### 臨床看護記録

2017年6月号  
看護部を中心とした  
「重症度、医療・看護必  
要度」評価の精度を高めるた  
めの取り組み



看護部 副看護部長 古田由美子

### 整形外科看護

2017年8月号  
「介達牽引」  
「間歇的空気圧迫法」  
「THA 後の体位変換」  
「弾性ストッキングの装着法」  
JSMN 認定運動器看護師  
12階西病棟 西田 裕子



雑誌『看護技術』で2017年か  
ら「患者のセルフケアを引き出  
すがん患者の症状マネジメン  
ト」の連載が開始になり、私は  
vol63.NO.2で「呼吸困難」を  
担当しました。この連載では、  
症状の医学的側面のみならず、  
患者さんの主観的体験に着目し  
たケアについて解説しています。



がん看護専門看護師 高尾鮎美

メディカ出版 消化器外科  
ナーシング特集号（2017  
年1月号）消化器ストーマ  
に関する特集号の中の『ス  
トーマ装具』を執筆しまし  
た。ストーマに関する基本  
がギュッと詰まった一冊で  
す。写真や図が多く見やす  
い点がお勧めです。



皮膚・排泄ケア認定看護師 中西由香

『3年目ナースの看護ケア事  
典：循環器』を執筆しました。循  
環器の患者さんの「どのような病  
態だったかな？」や「観察ポイン  
トは？」といった、看護を行う上  
でここだけは押さえておこう！  
という内容がギュギュッと詰め  
込まれています。



集中ケア認定看護師 澤井真理

脳の看護実践 2017年2・3  
月号の「脳浮腫患者のケア～脳  
浮腫時期の観察、ケアの注意点  
～」を執筆しました。脳卒中分  
野においては急性期での重篤  
回避のためのモニタリングが  
重要になります。病態の変化を  
理解したケアにつなげることが  
できます。



脳卒中リハビリテーション看護認定看護師  
田野岡文字子

コミュニティケア2016  
年11月号 第18巻第  
12号 老人看護専門看  
護師リレーエッセイ 家  
族の終生期に対峙して  
「喪失の中を生き抜く母  
とともに」



老人看護専門看護師の先輩が企画した連載に自分自  
身の介護体験を書く機会を得ました。

老人看護専門看護師 伊坪恵

オペナース誌 手術ナーシ  
ング Vol.4 No.3 におい  
て、「私のキャリア～生涯学  
ぶということ～」を執筆し  
ました。手術看護における  
キャリア選択や私自身のキ  
ャリアについて、私の経験  
を元に書きました。



手術看護認定看護師 高橋良知



## JCHO 大阪病院 特定研修受講生に聞く！～つづき～

### Q 現在はどのように研修を受けているのですか？

- ・ 自宅で、1日30分～1時間程度のインターネットでの通信授業を視聴します。小テストや、ミニレポートもあります。余裕のあるときに、早めにまとめて視聴するようにしています。(寺岡)
- ・ 日勤が終わって自宅に帰ってから、インターネット通信で学習することもあります。疲れて帰った勤務後に勉強するのは気力があるので、休みの日や夜勤前日などにまとめて受講することが多いです。15分～30分でやめることもあれば、何時間も一気に見たりすることもあります。自由に受講できるのとても助かっています。(草場)

### Q 研修を受けるうえで工夫している事はなんですか？

- ・ 印刷物があるため、それを打ち出して、重要なところは何度か視聴するようにしています。(寺岡)
- ・ 講義内容はプリントアウトできますが、インターネット配信の為にどうしても講義内容が単調に感じてしまうので、集中できるようにイヤホンで聞きながら学習しています。聞き逃したり、理解ができにくい所は何回か巻き戻してメモをしています。(草場)

### Q 今後の展望を教えてください。

- ・ 今までの経験を活かしながら、さらに専門的に知識と技術を深め、今後の看護実践に役立てていきたいです。超高齢化社会の影響から在宅医療が中心となっています。在宅医療において初期医療を的確に判断して地域と連携を図り、在宅医療を支える看護師を目指したいと思います。(寺岡)
- ・ まずは無事に卒業し、資格を得ること…でしょうか。

受講動機でも述べましたが、判断力や実践力の向上、患者の早期回復や円滑な入院環境の提供、在宅療養支援への貢献、スタッフ指導も含めた病棟看護力の向上など、実施したいことは多々あります。現時点でも研修で得た知識を臨床場面で活用することもしばしばあるため、今後の学習や実技は緊張もしていますが楽しみでもあります。自分が「何ができるのか」「何をすべきか」を考えていきたいと思います。

(草場)



## 平成 29 年度大阪府看護事業功労者表彰式

平成 29 年度大阪府看護事業功労者表彰式が5月13日(土)にナーシングアート大阪で開催され、13階東病棟森本看護師長が表彰されました。

この表彰は大阪府が長年にわたり看護業務に従事し、府民の健康維持・向上に貢献した看護職員の功績をたたえるものです。



### 編集後記

4月から特定行為研修が開始され、研修生の方が仕事と学業の両立をしながらキャリアアップをしている様子を今回のインタビューから知ってもらえればと思います。また、雑誌や本の執筆も多くの看護師が行っており、その一部を紹介してみました。日々の看護に活用してもらえればと思います。(中村明美)